

校則について

1 校則とは

- ・学校が教育目的を実現していくために、児童生徒が遵守すべき学習上、生活上の規律として定めたもの。
- ・各学校において、定められている。
- ・学校で社会規範の遵守について指導を行うことは重要なことであり、校則は教育的意義を有している。

●校則の例

- ・前髪は目にかからないようにする。前髪を不自然なカットにしない。
 - ・ソックスの色は白，黒，紺とする。
 - ・ベルトは黒で無地単色のベルトを着用する。
 - ・学校には，教科書・学用品等，学校生活に必要なものの以外は持参しない。
- ※お菓子，ジュース，タバコ，ライター，携帯電話等

2 校則の根拠法令

- 校則について定める法令の規定はない。
- 判例では、校則を制定する権限は、校長にあるとしている。
- 判例では、校則の内容については、学校の専門的、技術的な判断が尊重され、幅広い裁量が認められている。
- 校則は、社会通念上合理的と認められる範囲で、児童生徒を規律する包括的な機能をもつものと考えられている。

3 校則の内容

- ・校則には、学業時刻などの規則だけでなく、服装、頭髪、校内外の生活に関する事項など、様々なものが含まれている。
- ・全国一律の校則はない。
- ・学校がその特色を生かし、創意工夫ある定め方ができる。

4 校則の運用①

- ・校則に基づく指導は、児童生徒の内面的な自覚を促し、校則を自分のものとしてとらえ、自主的に守るように指導することが重要。
- ・教員がいたずらに規則にとらわれて、規則を守らせることのみの指導になってはいけない。
- ・校則違反した児童生徒に懲戒等の措置をとる場合があるが、その際には、単なる制裁的な処分にとどまることなく、その後の指導の在り方も含めて、児童生徒の内省を促し、主体的・自律的に行動することができるようにするなど、教育的効果を持つものとなるよう配慮しなければならない。

4 校則の運用②

- ・校則の指導が効果を上げるためには、その内容や必要性について児童生徒・保護者との間に共通理解を持つことが大切。

- ・校則は、入学時までなどに、あらかじめ児童生徒・保護者に周知しておくことが必要。

- ・その際には、校則に反する行為があった場合に、どのような対応を行うのか、その基準と併せて周知することも重要。

5 校則の見直し①

- ・学校を取り巻く社会環境や児童生徒の状況は変化するため、校則の内容は、児童生徒の実情、保護者の考え方、地域の状況、社会の常識、時代の進展などを踏まえたものになっているか、絶えず積極的に見直さなければならない。
- ・校則の内容の見直しは、最終的には校長の権限だが、見直しについて、児童生徒が話し合う機会を設けたり、PTAにアンケートをしたりするなど、児童生徒や保護者が何らかの形で参加する例もある。

5 校則の見直し②

- ・校則の見直しに当たって、児童会・生徒会、学級会などの場を通じて児童生徒に主体的に考えさせる機会を設けた結果として、児童生徒が自主的に校則を守るようになった事例、その取組が児童生徒に自信を与える契機となり、自主的・自発的な行動につながり、学習面や部活動で成果を上げるようになった事例などがある。
- ・校則の見直しを学校づくりに活かした取組とすることが大切。
- ・校則の見直しは、校則に対する理解を深め、校則を自分たちのものとして守っていこうとする態度を養うことにつながり、児童生徒の主体性を培う機会になる。